

みみつ中央通信

コーヒーを飲みながら本を読もうと思
ってファーストフード店に入った。席を探
しているとき、一番奥の席に高校生と思われ
る一人の女性が座って本を読んでいた。テ
ーブルの上には、スマホや携帯等の機器は
何も無かった。高校生は、本を手を持って
読書に集中しているのが分かった。「本を
読まなくなった」とはずいぶん前から言わ
れているが、なぜか、この高校生を見たとき
ホッとした気持ちになった。

先日、恐ろしいデータを目にした。「読
書時間ゼロ」の大学生が過半数を超えたとい
う(第五三回全国大学生生活共同組合連合
会による学生生活実態調査)今の時代、本
を読まない人が増えてきたことは予想で
きるが、ここまで本を読まない学生がいる
のは、寂しい気がする。だからといって文
字を読んではないわけではな
い。むしろ、大量に読んでい
るが、それは、ネット社会の
文字である。

しかし、ネットで読む文字
と読書には大きな違いがある。それは、「向
き合い方」の違いである。ネットで読んだ
文字は、記憶残っていないことだ。つま
り、ネットから拾う文字の殆どは、スルー
して見て見ているだけである。校正はかか
っていても、ストーリー性が殆どないから
記憶に残らない。

読書をするとき、次の四つが深められると
考えている。思考力・知識・人格・人生で
ある。特に思考力に関しては、磨くことで、
読書感想文や作文を書くときに、読書をし
ている、していないが明確になる。思考力
を磨くときに必要なことは、「感情をのせ
て読む」ということだ。

『ファーブル昆虫記』は子どもの頃読ん
だことのある本だと思ふ。読みながら「す
ごい、すごいよ」と興奮したのではないか。
ファーブルの驚きや感動をなぞるように、
心を動かしながらよんでいたはずだ。どん
な本でも同じように、著者の心と一緒にな
って「すごい！」と感動しながら読めばい
い。心が動き出せば、思考も一緒に深まっ
ていく。思考が深まれば、人生感も楽しく
なっていく。



校長
鈴木利明

読書する人だけが たどり着ける場所

読書好きな人は、本がいつも近くにあつ
て、時間を見つけては、本を読んでいる。
時間があれば本屋さんに行つて本を探し
たり、新聞の広告からも本を探したりして
いる。

喜多川泰さん著『書齋の鍵』という本が
ある。本好きの父親に反発して、本嫌にな
った「浩平」という青年が主人公で、時
代背景は今から三五年後の二〇五五年の
物語である。この本を読むと、色々な本を
読まずにはいられないから面白い。そ
して、この本の中に、お風呂の話がでてく
る。身体の汚れをおとすためにお風呂に入
るように、心の汚れを落とすには、『書齋』

が心のお風呂になるのだ。最初は、一〇冊
でも一〇〇冊でもいい、ミニライブラリー
を作ることからスタートすればいいのだ。
読んだ本の背表紙を見るだけでも、心が元
気になるものだ。自分が気に入った本や人
生に影響を与えた本が見つければ、その本
を一番目に付くところや気に入った所に
置くのも、心を元気にする一つの方法であ
る。さらに、本の中で拾った行には、付箋
を貼っておくとか、別の紙にその言葉を書
いて、手帳に挟んだり机のマットに挟んだ
りする等、方法はいくらでも見つかる。心
に響いた言葉や行をノートにまとめると
ネタ帳としても使える。つまり、読書の後
には、楽しいことを沢山積み重ねることが
でき、人生においてプラスになっていく。
お笑いタレントで『火花』で芥川賞を

受賞した、又吉直木さんは、
こんなことを言っている。
「もっと各々の好きなスタイ
ルで読書を楽しんでいいん
じゃないかな。長年色々な人
が研究してきた名作なんかは、細かいところ
まで解釈が出来上がっている。でも、そ
こであえてその解釈を全部捨てて、自分な
りの想像を膨らませながら読んでいける。
そういう楽しみ方ができるという点で、読
書には無限の可能性があるとと言える。」
ゲームを止められないのは、ゲームの楽
しさを知っているから。読書が好きなのは、
読書の楽しさを知っているからだ。だ
から、読書の好きな人は、ゲームに夢中にな
らないと思う。
読書は、必ず、自分の生き方を素敵の方
向へ導いてくれる。その場所は、読書をする
人しか分からない。

日向市南部凧揚げ大会

令和2年1月11日(土)



令和になって最初の凧揚げ大会が開催されました。雨が心配されましたが、雨は降らず、風にも恵まれ盛り上がった大会になりました。美々津は、神武天皇がお舟出をする際に、風向きを知るために凧を揚げたと言うことで、日本凧揚げ発祥の地になったそうです。自分で作った凧を空いっぱいに揚げてる姿はとても楽しそうでした。

立志式記念講演会(1月22日)



大和駿伝承学師

一般財団法人やまとの智恵

実践協会代表理事代表

社中 公(つじなか くみ)



修学旅行の時、宿泊した京都の旅館で、食事のマナーや箸の使い方等、日本人として身に付けておきたい大切なことを指導していただき、お世話になった社中公さん。今度は、立志式の記念講演会で来校していただきました。

職場体験学習(2年) 1月28日・29日

2日間にわたり、2年生が職場体験学習に取り組みました。御協力いただいた地域の事業所の方、本当に有り難うございました。



- レジ打ちをさせてもらって、おつりの金額を言うときに、声が小さくて、お客さんに注意されました。その時に、もっとお客さんに良い接客をするためには、どのような工夫をすれば良いかを常に考えておくことが大切なんだと教えてもらったので、お店で働いている人は、細かいところまで目を付けていて、すごいと感じました。
- 新芽を取る作業の時には、一番上の茎はそれほど大きく無かったものが多かったのに、次の日に見てみると、とても早く成長していたのでビックリしました。しかもこれを毎日していると思うと、暑いハウスの中、汗を流して、頑張っている姿をしみじみ感じることができるととても貴重な体験が出来ました。
- 一番大変だったのは清掃です。特に、トイレ清掃と外掃除です。いつも私はトイレ清掃を家でしません。これを機に家でもトイレをきれいにするようにします。外掃除は、掃くだけでなく、窓ふきや水流しなど、様々な事をしないといけないので大変でした。みんなが見ないゴミ箱の裏なども掃除するのですごいなと思いました。



ロコモ(ロコモティブシンドローム)とは・・・

年齢とともに骨や関節などの「運動器」の働きがおとろえて、立つ、歩くといった移動する動きがしにくくなった状態のこと。小さい頃からゲームで遊ぶ事が増えたことや屋外で安全に遊べる場所が減ったこと、生活が便利になったことで身体を使う機会が少なくなった。その結果、「子どもロコモ」が増えています。

子どもの頃からの生活習慣の積み重ねが、将来の自分の身体をつくります。これは、部活動をしているから大丈夫というレベルではありません。人間の身体は、自然の力で治るようになってはいますが、元に戻らないところもあります。しかし、身に付いた悪い習慣は、修正することができます。時代と共に周りの環境は変化していくからこそ、自分の生活習慣を正しく維持していきましょう。